

人物でのかかわり

カールレイモン

ハム・ソーセージ事業を函館で興した。昭和2年(1927)大野村の本郷駅近くに工場を建て、地域に貢献した。



同8年事業の拡大を考えたが道は認めず、強制買収を受けて函館へ移った。

井田倭吉

大野村新井家に生まれ、函館へ移り写真家田本研造の門人となった。



明治4年(1871)、開拓使に仕えた田本は道内各地を撮影した。田本は足が不自由で支えたのは井田である。

伏見勇蔵

大野村に生まれ、東京の中学校では野球に長けていた。



道内へ戻り教員となり、明治42年(1909)、函館弥生小学校教員で函館太洋倶楽部(オーシャン)に迎えられた。捕手、4番打者として活躍した。

藤田市五郎

大野学校第一回の卒業生で千代田村の開発に尽力し、大正11年(1922)温室を設け西洋野菜を育てた。



ケチャップの原料の製造に成功し、昭和6年(1931)函館五島軒ホテルに納めた。

木村文助

秋田で教員になり招かれて大正6年(1917)来道し、函館師範学校で一年間事務を執り、大野小学校の校長兼訓導となり綴り方教育に励んだ。



東京の児童雑誌「赤い鳥」に投稿し多数入選させた。

上田 仁

大野小学校を卒業し東京音楽学校に学んだ。



大正11年(1922)東京交響楽団などでファゴット、ピアノ、そして指揮者として活躍した。

戦前・戦後、度々函館で演奏及び指揮を取った。

小山内龍

函館で船員だったが東京へ出て漫画・絵本作家として名を残した。



戦時中大野へ疎開し、函館新聞社へ入社を予定し期待されたが、昭和21年(1946)病死した。

土方歳三

明治2年(1869)二股口(大野地区中山)の戦いで隊長の任を果たし、10数日間新政府軍を寄せ付けなかった。塹壕が今でも残っている。



撤退後、箱館で銃弾に倒れた。

清水三四郎

江差の役所の人で、明治14年(1881)2月任務を帯びて、江差山道を通って函館へ出向いた。



帰途天候悪く中山で遭難した。

顕彰碑がたっってい おおの郷土史かるたる。